

「被造物の声を聴け」

過剰な消費主義の支配にうめき声をあげている大地の叫び「被造物の声に耳を傾けるなら、その中にある不協和音に気づく。片やそれは愛する創造主を賛美する甘美な歌声で、片や人間による虐待を訴える悲痛な叫びである。過剰な消費主義の支配に大地はうめき声をあげ、虐待と破壊に終止符を打つよう私たちに懇願している。叫んでいるのは私たちの中でもっとも貧しい人々でもある。」

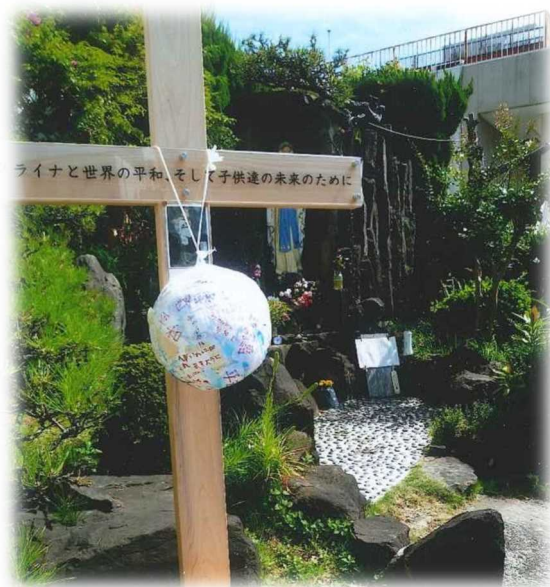
まずしい人々は気候危機によって激化し頻発している。干ばつ、洪水、ハリケーン、熱波の最も深刻な影響を受けている。」(カトリック新聞より)

「これらの悲痛な叫びを聞いた私たちは、個人として共同体として、教会としてなにができるか」祈りと活動への動きが始まった。

「祈りをもって地球の傷の手当てをしましょう」

「ルルドの十字架」が信徒の方の寄付で建てられ、「地球儀」をイメージした球をかけ、祈りの意向、願い、心の想い、メッセージを絆創膏に書いて地球儀に貼り地球の手当てをする。ルルドでのお祈りを特別に十字架のイエス様とマリア様
に捧げ、特にウクライナと世界の平和、子どもたちの幸せを願い傷ついた地球にメッセージを書いた絆創膏を貼って傷ついた地球の回復を祈りと行動で実践し、世界の平和と子どもたちの未来のために祈り続けている。

節約、節水、再利用として、20のペットボトル何本あれば現在の植木鉢や庭木には足りるかを調べ、無駄にならないように雨水や生活用水を小まめに貯めて利用することで十分活用できている。野菜の鮮度を保つためのひと工夫も野菜を大切に最後まで使い切ることに取り組んでいる。用紙の再利用では裏紙で間に合うものは利用し、封筒も裏返しして使用している。空調機、電化製品等の利用にあたっては、個人としても小まめな配慮をしてエコ利用に努めている。特にコンセント等は使用しないときは抜いておく心がけも節約の大きな要因となっている。リサイクルという制度には大いに助けられ、再利用への取り組みに感謝している。紙類・ペットボトル類・ビン類・カン類に分類し、自治体の回収日に定期的な収集が行われるので非常に感謝している。



— 家の中にも風の通り道＝神の霊の通り道を作ろう —

「私たちがすぐにできる風の通り道を作ろう」

窓だけでなく玄関の扉を開けることで、家の中に風の通り道が出来る。風が通り道をふさいでいないかどうか、家具の配置も見直してみる。そしてもう一つ大切なのが窓の外の環境だ。庭に樹木を植えたり、ベランダにも樹木のプランターを置いたりすると直射日光が遮られ、葉が呼吸することで、風の流れが心地よい方向に変わっていく。

樹木の手入れをするときは、手袋を使わないで素手で土を触ると形状や湿り具合、見た目、においなど土の状態がわかり、五感が研ぎ澄まされ、気持ちの良い感覚を感じ取れるようになる。よい感覚を感じ取れるようになると、樹木の育ち具合や生育環境に敏感に反応できるようになる。

神の霊が通り抜ける霊の道で家の中が満たされ 1人ひとりがおたがいさまの心で過ごし、相手を思いやる心で日々の小さな努力を続けたい。